

# 地域協働活性化プロジェクト ～「あすか学」による地域の魅力発信～



| 学校               | 学校運営協議会                            | 地域学校協働活動推進員等数<br>(赤字は内学校運営協議会委員数)     | 地域学校協働本部 |
|------------------|------------------------------------|---------------------------------------|----------|
| 奈良県立<br>高取国際高等学校 | 奈良県立高取国際高等学校学校運営協議会<br>令和元年6月1日 設置 | 地域学校協働活動推進員 0名 0名<br>地域コーディネーター 2名 2名 | —        |



## 取組の背景及び目標や目指す姿

### 背景

本校の位置する高取町及び明日香村周辺は、全国有数の歴史・文化遺産がある魅力あふれる地域である。地域では、歴史・文化の魅力発信にも積極的である。本校は昭和58年に普通科として開校した。平成17年に国際科を設置し、語学を特色とした学びにより国際的な感覚をもった生徒の育成を目指している。また、地域と連携・協働し、学校周辺の歴史・文化遺産を教材化することで歴史文化への理解を深めようとしている。

### 目標や目指す姿(学校)

地域から学び、生徒自らが課題を発見し解決する意欲や能力を育むため、探究的な学びを積極的に取り入れる。

### 目標や目指す姿(地域)

学校を核として地域との連携・協働のもと、人材教育及び地域の魅力発信を行う。



## 奈良県立高取国際高等学校学校運営協議会の特徴

### 委員の立場や属性等

- |                                       |                                     |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 高取国際高等学校育友会長 | <input type="checkbox"/> 天理大学教員     |
| <input type="checkbox"/> 養護盲老人ホーム慈母園長 | <input type="checkbox"/> 高取町総合政策課長  |
| <input type="checkbox"/> 明日香伝承芸能保存会長  | <input type="checkbox"/> 明日香村総合政策課長 |
| <input type="checkbox"/> 高取中学校長       | など、計 <b>10</b> 名で構成                 |
| <input type="checkbox"/> 聖徳中学校長       | 年間平均 <b>3</b> 回程度開催                 |

### 効果的な運営の工夫

実効性のある協議にするため、事前に委員である各町村の総合政策課長(地域コーディネーター)と打合せを行い、地域の課題や要望等をヒアリングし、どのような協働活動が実施可能か、協議すべき議題などを検討している。また、地域コーディネーターが各団体等と連絡調整を行うことで、地域に根ざした熟議が行えている。  
新型コロナウイルス感染症対策のため、感染者数が増加の状況にある時は、書面やメールを活用し、意見交流を行った。



## 特徴的な取組と成果・効果

### 学校運営協議会

地元自治体から、国際交流や地域づくり等の分野で高校と連携し、地元で活躍する人材を育成したいという声が上がった。学校運営協議会での協議によって、学校設定科目「あすか学」を中心に地域と協働し、生徒の学びと地域の魅力発信を支援することにした。



学校運営協議会

### 地域学校協働活動

「あすか学」は、地元ボランティアから講義やフィールドワーク等を通じて、地域の歴史や文化を学ぶ科目である。生徒の探究的な学びを支援するため、地域コーディネーターの働きかけにより、観光や文化財等に携わる様々な地域住民が参画している。



長円寺での座禅体験

### 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

地元自治体の高取町及び明日香村の総合政策課長が学校運営協議会の委員として参画し、地域に根ざした歴史・文化遺産を教材として活用するように提案し、熟議を通じて出された協働活動を実現するため、地域の各ボランティア団体等との連絡調整を行っている。

## 取組

## 成果・効果

【授業アンケート】「あすか学」は、興味や関心がわき、学習態度の高まる授業であるか。

| R3 | とてもよく当てはまる | やや当てはまる | 計   |
|----|------------|---------|-----|
| 1年 | 41%        | 42%     | 83% |
| 2年 | 57%        | 33%     | 90% |

第1学年は総合的な探究の時間「探究なら」、第2学年は「あすか学」の授業アンケートの結果である。両科目とも地域の歴史や文化について学んでいるが、学年が進むにしたがって、肯定的な回答の割合が増加している。

- ◆ 行政担当者が地域ボランティアを学校に紹介し、多様な講義やフィールドワークが実施できたことによって、生徒の探究活動が深まった。また、成果発表等に行政担当者が参加し評価することにより、「仮説の設定→調査→分析・評価→活動内容の改善」というサイクルがよりよく構築されている。
- ◆ 授業で取り組んだ活動の様子をSNSに掲載することによって、地域の魅力を発信し、地域の活性化に貢献している。生徒の記録ノートには、「とても貴重な体験ができた。達成感をすごく感じた。」といった記載があった。
- ◆ 地域住民からは、「生徒たちは地域の課題を発見し、解決しようと興味をもって授業に取り組んでいた。」といった意見が出ており、学校が目指す姿が現れている。